

「市役所の小川さん、哲学者になる 転身力」

小川准教授がフリーライター体験も

「転身力」を持つ小川さん

21日・出版記念トークショー

● 徳山高専 ●



徳山高専の小川仁志准教授(38)が海竜社から「市役所の小川さん、哲学者になる 転身力」を出版した。小川さんは商社マンからフリーライターを経て名古屋市の職員にな

り、さらに大学院で哲学を学んで昨年春、同高専の准教授に採用されたが、それらの体験談や研究している「公共哲学」についてもふれており、二十一日午後五時半から周南市銀座のふれあいパーク街あいの高専夢広場で出版記念トークショーを開く。

小川さんは京都大学法学部を出て伊藤忠商事に入ったが、台湾と北京に留学したのをきっかけに商社を退職し、人権、民主主義の問題に取り組もうと弁護士を目指した。しかしそれに挫折して四年間のフリーライター生活を送ったあと三十歳で名古屋市の役所に入って名古屋市立大学の社会人大学院で学んだあと、徳山高専の教員に採用され、今春、人間文化学の博士号も取った。

「転身力」はB6判二百八十四ページ、千五百円。フリーライターからどうやっ

て脱出できたか、公務員試験の必勝法、市役所の仕事で学んだこと、大学院に入るための方法や外国語マスター法、家庭、市職員、大学院生としての研究生生活の両立、そして教員の公募に応じて採用され、プロの研究者になるためのステップなどをわかりやすく解説したページもある。

一方、なぜヘーゲル哲学を研究しているのか、哲学がビジネスにどう役立つのか、どんな哲学者を目指しているのか、街あいで哲学的なテーマを気軽に語り合う哲学カフェなど同高専での活動も紹介している。

また著書の出版だけでなくインターネットにブログ「哲学者の小川さん」を開設しており「一人々々が世の中のことを深く考える基礎を作りたい。そのために発言していきたい」と話している。

トークショーは参加無料。問い合わせは同高専地域連携推進室(0834・29・6227)へ。